

会 議 録

会議の名称		第 3 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時		平成 27 年 8 月 12 日（水） 開会 13：30 閉会 16：30
開催場所		つくば市役所全員協議会室
事務局（担当課）		市長公室ひと・まち連携課
出席者	委員	・株式会社カスミ 藤田 元宏 ・一般社団法人つくば観光コンベンション協会 大山 寛 ・つくば市工業団地企業連絡協議会 伊東 正俊 ・つくば市商工会 桜井 姚 ・つくば市谷田部農業協同組合 櫻井 恵子 ・株式会社エデュケーションデザインラボ 平塚 知真子 ・筑波学院大学 大島 慎子 ・国立大学法人筑波技術大学 生田目 美紀 ・つくば市中学校・高等学校長協議会 井坂 博子 ・つくば市ボランティア連絡協議会 柘植 法子 ・特定非営利活動法人ままとーん 中井 聖 ・茨城県企画部つくば地域振興課 潮田 勝利 ・筑波研究学園都市交流協議会 吉田 靖 ・一般財団法人つくば市国際交流協会 小玉 喜三郎 ・公益財団法人つくば文化振興財団 飯野 哲雄 ・株式会社常陽銀行 櫻井 裕之 ・株式会社筑波銀行 沼田 数人 ・茨城県社会保険労務士会 森田 信雄 ・つくば市シルバー人材センター 福田 征男 ・日本労働組合総連合会茨城県連合会 カスミグループ労働組合連合会 奥谷 崇 ・株式会社茨城新聞社 関 富美也 ・一般財団法人研究学園都市コミュニティサービス 小山 幹治 ・常陽新聞株式会社 棚澤 悟 ・日本放送協会水戸放送局 加茂 明 ・筑波大学全学学類・専門学群代表者会議 長城 沙樹 ・筑波地区区会連合会 鈴木 忠雄 ・豊里地区区会連合会 坂本 義治 ・茎崎地区区会連合会 小原 正彦 ・つくば市議会 塩田 尚 ・つくば市議会 塚本 洋二 計 30 名
	その他	オブザーバー つくば市副市長 岡田 久司
	事務局	稲葉市長公室長, 高田市長公室次長, 長ひと・まち連携課長, 以下, 5 名

様式第 1 号

公開・非公開の別		☒ 公開	☐ 非公開	☐ 一部公開	傍聴者数	9 名
会議次第	【全体会議】 1 開会 2 議事 (1) 第 2 回会議（7 月 16 日（木））の指摘事項と対応方針について (2) 人口ビジョンのとりまとめ状況について 【部会】 (3) 総合戦略のとりまとめ状況について 【全体会議】 3 部会の状況報告 4 閉会					

【全体会議】 1 開会 ○公室長 それでは、定刻になりましたので、第 3 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会したいと思います。 本日は、連日の猛暑が続く中、またお盆前の大変お忙しい中を御参集いただきまして、まことにありがとうございます。 本日は 30 名の委員の皆様にご出席をいただいております。 まず、議事に入ります前に配付資料の確認をいたします。事務局からお願いします。 ○事務局 本日もお忙しいところ御出席いただきましてありがとうございます。（配布資料の確認） では、本日もよろしくお願いいたします。	
2 議事 (1) 第 2 回会議（7 月 16 日（木））の指摘事項と対応方針について ○公室長 もし不足の資料がございましたら事務局にお申しつけいただければと思います。 それでは、議事に入ります。 ここからは、つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第 5 条第 3 項の規定に基づきまして、座長に議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。	

様式第 1 号

します。

○座 長 皆様こんにちは。お暑い中、本当に御苦労さまでございます。

それでは、早速、議事に入っていきたいと思います。

本日は御案内のように 1 時半から 4 時半まで 3 時間、大変長丁場ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

最初にこの後全体会議を行いまして、その後 2 つの部会に分かれて前回と同様にご議論いただくわけですが、今回は、最後 1 時間弱になるかと思いますが、再度全体会議にお集まりいただきまして、今後の取りまとめの方向性などの課題について御議論いただく予定になっております。

それでは、早速、議事に入りますが、まず初めに、第 2 回会議における指摘事項と対応方針について、皆様から会議後も御意見をたくさんいただいたものをまとめていただいておりますので、それについて事務局の方から御説明いただきたいと思います。

○事務局 (資料 1, 会議録等について説明)

○座 長 ありがとうございます。会議録につきましては既に皆様のお手元に配付されて、それが修正されたものが本日配られました最後の資料にありまして、そこではアンダーライン等を引いて変更点が見えておりますが、皆様の修正等が反映されているかどうか確認いただきまして、そして先ほどの資料 1 の表になっている意見について御確認いただければと思います。

特にお気づきの点で、ここはというような御意見、あるいは訂正等ございますでしょうか。

後ででもよろしいので、お気づきになりましたら御連絡いただければと思います。

前回と同様に、この会議録につきましては一応これで確定といたしまして、公表する際には委員名、個人名は省略した形になりますが、御了解いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしくお願いいたします。

(2) 人口ビジョンのとりまとめ状況について

○座 長 それでは早速ですが、次の議題の 2, 人口ビジョンのとりまとめ状況について、そのほか関連するアンケート等の資料もあり、今回まとめていただいておりますので、まとめて資料 2 の関連を事務局の方から説明いただきたいと思います。

○事務局 (資料 2 - 1 の概要について説明)

○事務局 (資料 2－2, 2－3, 2－4, 2－5 の概要について説明)

○座 長 ありがとうございます。

色々な資料が出ておりまして、また興味深い結果も出ているかと思いますが、全体、どこからでも結構ですけれども、内容について御不明な点、あるいは御意見等、ございますでしょうか。

この後、2つの部会に分かれて御議論いただきますが、全体の会議での議論はここまでするので、これを含めまして、むしろこういう点も含めるべきではないかとかいう御意見等も含めましてございませんかでしょうか。

私から一つ聞きたいのですが、先ほどの資料 2－2 ですが、これは市民アンケートですよね。前半は高校生と大学生ですが、この市民アンケートというのは、前の委員会で聞いたかと思うのですが、どのくらいの数を配って、どのくらいの回収率だったのかとか、あるいはどういう世代が多いとか、何かそういう分析はございますでしょうか。

○事務局 19 歳から 49 歳までの男女 3,000 名の方にアンケートをお願いしました。

回答数ですが、1,103 通の回答をいただいております、回収率が 37 %。それを分析した結果、こういう結果が出ております。

○座 長 わかりました。男性と女性の比率とかそういうのはわかりますか。

○事務局 一部の回答の中での割合しかまだ出ておりませんので、全体については、今後報告させていただきます。

○座 長 後で。わかりました。ほかにどなたかございますか。

資料 2－3 について、重要度、満足度、これはこれで数字としておもしろい結果も出ているかと思うのですが、この後の各部会での議論との関連で御意見ございますか。

見方によっては、市行政の全般的な満足度、あるいは重要度ということになると、例えば 3 ページ目の横長になっているグラフはとてもわかりやすいし、これを右上に持っていくんだというのが施策の方向性だという意味でわかりやすい絵になっているんですが、地方創生、あるいは人口問題とどういう関係にあるのかというのが見ていて分からない点があるとか、その辺に関連して何か見方とかで御意見ございませんか。

○委 員 今、アンケートの回答は高校生と大学生ですよね。高校生は恐らく学校で配布して、大学生はウェブでやったと。一般の方というのは郵送法か何かでおやりになったのですか。

様式第 1 号

○事務局 はい。コンピューターでランダムに抽出させていただいて、郵送でお送りして、郵送で回答をいただくという手法をとらせていただきました。

○委員 一般的に郵送法では 10 % ぐらいしか集まらないのでしょうか。

○事務局 ただ、今回は 37 % と、かなり高い数字が出ました。

○委員 やはり関心があるんだと思いますね。

○事務局 意識の高い方がいらっしゃるというふうに私どもは解釈しました。

○委員 この優先度の真ん中のグラフですよね、一般の方のをまとめたときにどういう形になってくるか非常に興味を持っています。

○委員 このアンケート結果なんですが、居住形態は出ているんですけども、県内出身者か県外出身者かということの集計はされているのでしょうか。

○事務局 本日は速報版で、集計に関しては今回には間に合わなかったのですが、その部分は設問がありますので、最終的にはそのような形でお見せできると思います。

○委員 県内の大学生から見たつくばに対する見方と県外から来た方々の見方というのは、若干、意識の違いがあるのではないかなと感じますので、その違いが見えればまたおもしろいかなと感じました。

○座長 ほかにいいですか。

それでは、また部会の方でもお気づきになられましたら、このデータを御議論いただければと思います。

全体会議の方はこれで終了いたしますが、この後、総合戦略の取りまとめ状況等、今本部の方で作業しておられることにつきまして、それぞれの部会に分かれて御議論いただくことになっています。

その部会が終了後、冒頭に申し上げましたとおり、またもう一回全体で集まりまして、今後の方向性等を確認することになっています。

それでは、事務局の方から御案内をお願いします。

○事務局 (部会開催の案内)

■■■部会別の議論【しごとづくり・子育て部会】■■■

1. 産業力の強化でしごとをつくり、安定した雇用機会を創出する

○事務局 （資料 3，資料 3 参考資料について概要を説明）

○委員 質問なのですけれども、資料 3 参考資料ですが、新規事業と拡充事業と両方ここに書かれているという理解でよろしいですか。新規はどれになるのでしょうか。

○事務局 新規は、(ア)①創業者定着支援事業、(イ)①（仮称）つくばロボットフェスタ事業、(イ)②生活支援ロボット普及促進事業、(イ)③つくばイノベーションプラザ事業、(ウ)①大学生就職プラットフォーム事業です。

○委員 (ア)産業競争力を高める施策のなかに、商工業の振興ですが、その⑧の KPI ですね、この中に企業誘致の件の目標値のことが入っていませんがどうなのでしょう。例えば、県は最近県全体で問題になっているということで各企業日本全国 5,000 社を選んでダイレクトメールを先週出したばかりです。そういったようなことは考えているのですか。

○事務局 企業誘致に関しましては、今回はまだ検討中ということでございます。

○委員 農業の件ですけれども、私前回の会議で環境も含めて有機農業ということを提案したのですが、有機農業は考えておられないのですか。

○事務局 農業振興については、昨年度、農業基本計画が策定されており、有機農業は一つの施策として掲載されていますので担当課と調整していきたいと考えております。

○委員 やはり有機農業を全面に出して、なおかつ 6 次化ということも言われていましたね。その件が今回抜けていますがいかがでしょうか。

○事務局 6 次産業につきましては現在実施している事業である⑨に記載されております。拡充を踏まえ検討してまいります。

○委員 先ほど新規事業を御紹介いただいたのですが、それを見る限りだと、先ほどの資料 2-3 の平均値を両軸にとってのグラフ化で、重要度は高いけれども満足度が低いもの。労働環境の改善という施策が無いという印象ですけれども。特に女性の再就職支援が起業だけというのでは数的にどうかと思いますが。数多くの専業主婦の方を再就職につなげることができれば数字的にすごく影響力が大きいものになると思いますので、やはり独立して、ここは新規で新しい事業名で取り組んでいただけるといいのではないかと。これだけ見ると若者と女

様式第 1 号

性が一緒になっていて、インパクトが不足しています。目玉に欠けると言いますか、何かいつも同じことをやっているという印象を受けてしまうので、何か強気をお願いしたいと思います。

○事務局 担当課と再度調整させていただきたいと思います。

○委員 先ほどの優先度の資料の中のグラフ化のデータを先ほど話したのですが、高校生と大学生のアンケート結果の資料、データですね。

○事務局 そちらは一般市民ですね。

○委員 一般市民の意見の反映として、雇用の不安とか労働環境の不安を持っていて、なかなか子育ても不安がついて回る。前回も話がありましたが、ここらへんの従属を具体的にすることがある。話が変わりますが、次世代育成事業とありますよね。企業も義務化されていて、市役所の特定事業でやらないといけない。その中の資料をつくば市の特定事業の行動計画の結果を見たんですが、具体的にきちんとやっているかというのは非常に疑問なのですね。例えば男性の育児休暇の取得率は全国で 2 %ぐらいしかいないですよ。ところがつくば市役所は誰もいないのですね。0 %というか誰も取っていないですよ。

○事務局 一人います。だいぶ前ですが。

○委員 民間企業が男性の育児休暇を取るのはすごく難しい。戻ってきたらポストが、机がなくなっていたという話なので、やはり行政指導というか、率先して見せて、民間もやってくださいねというには職員の方が率先して取れるような環境づくりも市役所全体の中でも必要だと思っているんですね。女性の方でいえば、中小企業を中心にして現場を歩いていますが、一旦、職場を離れて職場復帰をする、職場復帰してただ職場復帰も短時間労働者になったり契約社員になったり、特に中小企業は今までの正規社員として雇用されるのはすごく難しいのですね。ですから市と行政と民間企業と連携する中でも、タイプなどがあって、掘り起こしがとても必要だろうと思っています。人手不足の業界、例えば介護とか介護士、保育士なども、一旦資格をもっていて現場を経験したがまた戻るといのは非常に多くありますが、どうやって戻ったらいいかわからないとか、戻ったときの教育も今にあった教育がきちんとされていないとか、そういう問題がありますから、そこらへんが事業としてできていればいいかなと感じます。

○委員 市の職員で育休をとったという方が 1 名いらっしゃるという話で関連するのですが。研究機関は元々公務員に研究職をやられている方が多い。年休で、例えば妻が出産してその後のケアにあたるために育休ではなく使いやす

い年休で取られている、隠れ育休なんて呼ばれたりするそうなんです、取得率は意外と高いのではないかと思います、市役所の中でもイクメンといった方は少なくないと思うのですが、意識的に見せていく、市役所ではこれだけ男性が育休を取っていますよということを見せていくことを目指して、女性の方から声をかけてもらうような働きかけがないと。とりあえず育休でなんとかうちの中のことはまわるからいいかというところで、これも上司向けの啓発というか、もう一押しがないと難しいのかなと。そうした上で見せていく、それをいかにつくば市のイメージアップにつなげていくのかということをもう戦略的に考えられるといいのかなと思います。

○部会長 個人的には賛成です。若者の就業と女性の就業は異なりますが、同じ項目でくくられているのは問題です。特にアントレプレナー教育は、若者に限るわけではなく中高年対象でもよいわけですから、このような機会を一般に拡大することを施策とするのがよいでしょう。女性の場合、育児などいろいろな問題も多いでしょうからこの対策が必要なのです。気になるのは「市内の女性起業家や経営者をコーチとしてシンポジウムを行う」などの計画は、それをしたからと言って女性起業家が増えるわけではないでしょう。また、つくばインターンシップコンソーシアムは筑波大学内にあり、本学も協力していますが、筑波大の卒業生は大都市に就業することが多いわけです。この場合、つくばインターンシップコンソーシアムで商工会と提携したインターンシップに参加する筑波大学生を増やすという意味か、それともこのコンソーシアムに県内の他大学の学生も参加して地元回帰をはかるという意味か明確ではないと思います。

○委員 質問なのですが、今回は、産業振興で地方創生をしようという話と、人口の定住化をすることでいわゆる人口問題に着手していこうというのが大きなテーマだと認識しているのです。特に産業振興等々を今後考えていくと、つくば市そのものの都市整備計画みたいなものと非常に密接な関係を帯びてくるだろうと想定はしているのですが、ここでの議論といわゆる上位の概念とはいいいませんが、隣にあるそういった概念との関係性は今後どう考えられていくのかというところを教えてくださいたいのですが。

○事務局 基本的には縦軸の 12 番で関連する個別計画というところに関連性を持たせた施策を今回作るということでございます。今のような御指摘があると当然そういうような方向で関係部局と協議していくという形で、総合戦略の作成に向けてやっていくという形になります。

○委員 先ほどのアンケートの調査結果を見たところ、ここに住みたい理由と住みたくない理由というのがあって、地元の人にとっては交通が不便、要は住環境として何がどういう環境を整えることが、住みたくなるのかということを考えていくと、TXから遠い方はきっと交通が不便だといわれているのだろ

うと想像できます。そうするとその他の様々な交通の整備計画とか移動をどうするのかという戦略的な話になるのではないかという風に思ったものですからこのようなことを危惧しております。つくば市として定住ゾーンとしてどこを考えていらっしゃるのか、あるいは産業振興ゾーンとしてどう考えていらっしゃるのか、あるいはその周辺に点在する農地、農業振興というテーマがありますが、これに対してどのように考えられておられるのか、基本的な考え方を明確にした上で色々な施策を検討すべきではないかと思ったのですが。これは個人的な意見なので、その辺の御見解があればお聞かせいただければいいなと思いました。

○事務局 確かに居住地域は、移住・定住という意味ではTX沿線ということになります。既存の住宅地、関連でいきますと、2次交通いわゆるつくバス・つくタク。このような形で2次交通になります。こちらの需要が多い少ないというところもございますが、今後充実させていく施策も当然必要ではなかろうかと思っております。もう一方で将来的にもコンパクトシティ等の考え方もございますので、その辺のところも担当部局と協議していかなければならないという問題であると認識しております。今回御意見をいただきましたので、こちらの方につきましては再度、部局との調整ということになろうかと思えます。再度、こちらの方から今回の会議の中でお答えできればと考えております。

○委員 今回の関連質問なのですが、前回の会議で基本的なポイントというのがありまして、その中で基本目標とか基本施策・個別施策というものを直すというのがポイントとなっていたのですが、前回これが抜けていましたような気がするのですがいかがでしょうか。第2回会議の1～12の項目について今のポイントとしてこういうものがあるということなのですね。中長期、特にこの場合はロングランになるわけですが、そういった場合はフレームというか骨格をきちんとしたものを作らないと、枝葉の部分での議論になってしまうと思うのですが、その辺はどうなのでしょう。

○事務局 今回の①②の縦軸の基本目標・数値目標につきましては、当然策定中のものがございます。今回赤字で述べているものにつきましては御意見等を参考にして今回訂正しているということをお示ししており、極論をいいますと基本目標(1)の「産業力の強化で仕事をつくり安定した雇用を創出する」という目標であっても変更することが可能でございますので、そういう意味で御意見をいただく場がこの有識者会議かなと認識しておりますので、何か不都合な点等ございましたらピンポイントで御指摘いただければと考えています。全てが御希望に応えられるとは限りませんが、よろしくお願いします。

○委員 商工業の振興のKPIの設定で5年間の創業件数180、起業として50社の根拠が今回示されたわけなのですが、KPIについてはこれで良いと思いま

す。教えていただきたいのは、その隣の農業の振興で KPI の 5 年間の新規就農者数 13 人の根拠が下に書いてあるのですが、この辺をもう少し説明をいただきたい。というのは、他の自治体ですでにやっている週末滞在型のクラインガルテンがあるのですが、これを意見として提出させてもらったのですが、他の自治体が行っている週末滞在型ではなく、中長期滞在型の本格的なクラインガルデンを作って、本格的に農業についても市外からの移住者を定着させるという仕組みづくりをしていったらいいのではないかと思います。そういったことからするとこの 13 人というのはどういう根拠なのかというのを教えていただければと思うのですが。

○事務局 13 人という数字に関しましては、つくば市の農業基本計画より引用しております。担い手の専業農家を平成 20 年から 26 年まで 7 年間で 41 名というものに関しまして 30 %増やすという基本目標よりの引用です。またお話があった件に関しましては、再度貴重な御意見として農業担当課につなぎまして調整させていただければと考えております。

○委員 その 30 %増やすっていうのはどうやって増やすのですか。

○事務局 30 %増やす部分に関しましては、今回の主な取り組みの事業⑨及び⑩になります。例えば耕作放棄地の解消に関するものであったり、生産者や都市住民との交流の輪を作って農と食に対する理解促進を図ったり、そういうものからつくばに来て農業をやっていただきたいという方を増やすという施策でございます。その他、農業経営の規模拡大や農用地の集団化に関して、また、農業経営を営もうとするものの参入促進を図るために農地中間管理事業という施策もあわせて実施していきたいと考えております。

○委員 私が提案したクラインガルテンも耕作放棄地・休耕田といったものを再利用するための施策として意味があるのかなと考えています。

○部会長 クラインガルテン (Klein Garten) は、ドイツ発祥で、老後や余暇の楽しみというよりも都市部の緑地保全や子供の自然教育のために 100 坪ほどを 30 年の期間貸し出す制度ですが、この考え方を導入して農業人口を増やすお考えなのでしょうか。

○委員 他の自治体が行っているのは、都市部の小さな家と + 20 坪くらいの農地を使って、週末滞在型ですね、東京の人が週末に茨城に来て農業を体験してはどうですかという。でもこれでは定住策にはまるっきりならないわけです。もっと本格的にいうと 40 坪くらいの農地を用意して、そこに週末滞在型ではなく中長期滞在型、いわゆる将来は移り住んでというやり方ですね。そういう本格的なクラインガルテンを作って定住策を考えるべきなのかなと考えていま

す。

○委員 科学技術の振興のマイスター，科学教育マイスター認定数 5 件，これも教えていただきたいと思っております。それから安心して働ける取り組みという，市内の女性起業家があるのですが，女性が講演やシンポジウムをして女性の起業家の起業を促すという表現は引かかるのですよ。

○部会長 私の発言の真意は，今の計画だけだと女性起業家は育たないのではないかという印象をもったということです。アンケート資料 2-3「安心して働ける労働環境をつくる」では，非正規雇用ばかりの労働環境を改善してほしい，子育て後に社会復帰したい，希望職種につきたいなど具体的な希望が出ています。ですから，学生と女性をひとくくりにすると解決できないので整理していただきたいわけです。

○委員 今回 3 回目ということで，大体収束になっていくわけですが，もちろんつくばならではのロボットの街であるとか，女性がかかなり様々なバックグラウンドを持った方々がたくさんいらっしゃるということとその活用ということとは当然だと思うのですが，今までの議論を聞いている段階では，当然若者の定着と女性の活用はどこの町でもいえることですし，この農業の振興，商工業の振興，科学技術の振興と縦割りにして見ている分にはどこでとっても同じかなと。つくばらしさをどこでだしていくのかという気は若干しております。やはり委員の方からお話がありました，つくばって中心部がアーバンエリアと，その直後に田園地帯が広がっている。しかも東京から 1 時間圏内で来られる中でこれだけ地域の特色が際だっているところはそう多くないと思うのですよね。その特色を活かさない手はないのではないかと。それが今の高校生の中でも，特に原発事故以降，自然に対する意識が強まって高まって行って，農業についても若者達が以前よりもむしろ関心をもっているのではないかと。何らかの形でもし農業が閉鎖されていなくて，もっと解放された状態であれば，新たに様々な試みをしてみたい，起業をしてみたいというチャンスも広がってくるのではないかとと思うのです。ですからつくばならではのできる施策というのはどういうものかと考えていかないと。いつまでも自分のバックグラウンドから抜けられないようなそんな気がしています。

○委員 私も有機農業をやって 10 年になるのですが，まさに言われた空き地を 200 坪から始めたのです。去年まで 300 坪やっていたのですが。要は有機農業がなぜいいかというのは，無農薬であるということです。無農薬ということは，農薬というのは当然虫を殺すくらいですから人間にもよくないわけです。それともう一つ，オゾン層の破壊があるわけですね。成層圏に行ってオゾン層の破壊という問題が。それと人間の健康と地球環境。これのカギを握っているのは有機農業である。つくばスタイルという意味からして有機農業に取り組む

もう一つは堆肥のことですね。生ゴミが燃えるゴミに分類されるつくば市内では約 40 %出ているわけです。これは堆肥に使えるわけですね。こういったことも含めてやっていけば有機農業つくばスタイルができると思う。それともう一つはロボットの街つくばなのですから、その中で前回も言いましたが、農業をやっていて一番問題になるのは腰が痛くなることですね。私も去年まで 300 坪やっていて 200 坪に減ったのは腰が痛くなったのです。ということは今サイバーダイナミクスなどが作っているロボット、腰に巻くやつですね。これがもっと安くできれば、例えば数万円でできるような状況になればもっと農業人口が増えると思うのです。皆若者が一旦入るけれども、どうしても皆リタイヤしてしまうのは結局腰を痛めるからです。そういった意味で、せつかくロボットの科学技術でいっているつくば市ですから、こういうところを連携すればすごくいい農業スタイルができると思います。是非それをやっていただきたいと思います。

○委員 今の農業の問題が出ましたので、付随したことを話したいと思います。今堆肥づくりとか有機栽培とかそういう風な形に繋がると思うのです。そういう中でやはり作物を作ると草との戦いというか、どうしても除草剤を使っちゃうというようなことがあります。無農薬という時代になっています。確かに草を堆肥すれば作物がいいのができる。有機栽培であればそういう中でやっていけるということで今はロボットの話も出ましたが、草取り専門でロボットがやってくれと。そういうような形になればかなりの若者もロボットと一緒にできるのではないかと。つくばでこういうことをやっています、つくばはこういう風にロボットとやっていますよ、そういう形で農業の方と一緒に付随してやっていくという発想も確かに必要だと思います。

○委員 引きつづき農業に関してなのですが。私農協で働いておりまして日々農家さんともお話しさせていただく機会が多いのですが、今農業を支えている方は高齢の方が多いというのが現状だと思います。御主人たちはやはり、農家の方というのは田畑を荒らすことに対してすごく抵抗がある方が多く、体もきついけれども田んぼと畑を荒らさないために続けている方が多い。ただもう限界が来ていて自分の体が持たないからやめるという方も。その中でここにもあるのですが、農業をやりたいという方に貸していくというものが、どうしても農家の方は個人間で、知らない人に対する警戒心が強いという傾向があると思うのです。ですので、市とか農協もこれから集約をして空いてしまうところを農協が生産法人として作っていくという方向になるのですが、やはりそれを行政でやっていただければ農家の方の安心もすごく大きいのかなと思います。

○委員 確認なのですが、今回の雇用機会を創出するという事業の中に資料の 3-2 ですか、若手職員プロジェクトチーム、この事業というのは入っていないのでしょうか。

○事務局　今回お示ししている中には入れてございません。その部分につきまして実際やれるかどうかの精査の段階でございます。やれるものにつきまして総合戦略の新規の事業の中に入れ込みたいと考えてございますが、今回は提示していないということでございます。

○委員　私が思うには、今回の創生事業、国がやっているものについては、新しい事業がメインで各市町村は競い合って予算を獲得するのかなと思ったのですが、通常新たな事業の出生、出産ですか、人口増を目指すために新たな事業を取り組んでくださいという、そういうための今回の創生事業という形だと思ったのですが。前回の会議の時にもいったのですが、総合計画に色を付けてうちはこういう形でやっていきますという形よりは、私は新しい事業を全面に出した方がよろしいのかなという感じがしたのですが。

○事務局　ありがとうございます。今回作成している総合戦略につきましては、今までの施策では人口が減っていってしまう、そこに特化した施策で人口を減らさない、都市圏から東京圏から人口を呼ぶ、仕事を作って人を呼ぶというところがポイントと考えております。に特化した施策でございます。ですから、今までの施策＋αの施策がない限りはそういう方向にはならないということで、今ご指摘の通り新規施策やこれまでの施策を拡充させなければなりません。前回提示しました若手職員の提案施策は5年間の中で実施できるものとできないものとの調整が必要です。今の段階でお示しするのは早いかなということでその辺りは御理解いただければと思っております。

○委員　私が見た感じではすばらしい企画も入っていますので、できれば後押ししてあげたらよろしいかと。

○事務局　すでに若手職員提案の 29 施策がありましたが、2 つほど 27 年度に実施する方向で今予算を検討しております。全てができないということではございませんので、やる方向でとにかく考えています。

○部会長　これおそらく書類の書き方が縦割りで書いているので、とても並列的で変化がないものに見えるのではないかと。例えば色々な御意見をまとめると、農業を振興するにもロボットを活用できるし、有機農業はできるし、若者の雇用の創出にもつながる。安定した職場というものをまとめるのも必要かもしれませんが、先ほど「つくばらしさ」という意見がでましたが、例えばこの中で科学技術の振興とかロボットの街つくばの推進とか、研究機関等の集積をいかすなどのことは他の都市では絶対できないことであって、本当にこれはつくば市の典型的なものだと思うので、こういうのを中心にして書き方を考えると相当つくばらしいものができるのではないかなという印象を持っております。

○委員 私も同じ意見で、新しい見せ方の工夫が必要なのかなと思います。その関連で新規事業につくばロボットフェスタ事業が挙げられているのですが、これは誰のためのイベント開催なのかというのが分かりません。子供のためのつくばちびっ子博士とか科学フェスティバルとか研究所の一般公開なども含めると既になんか数多くやっているのに、さらに新規でこのロボットフェスタを新たに開催する目的は何なのか。例えばつくばを科学の街と売り出して、住民の定着を図るといふのだとしたら、東京の小学校に親子遠足の地としてつくばを選んでもらって、連れてきて体験させてつくばを否が応でも経験させるくらいの目的があるだったら新規性があるかなと思うのですが。この事業名だけ見ると、これをやったところで市民も人口を増やすための施策と思わないと思います。つまり、あたらしい「まち・ひと・しごと」の施策だと思えるような事業名かということハテナがつくかなと思うのですね。やはり市民の方が読んでこういう「まち」になるのねとワクワクするような事業名を考えていただきたいです。先ほど若手職員の方の事業をどうなるのだという話がありましたが、まさにそれを施策名にして若手職員の考えた事業を実現させる事業などは新しさを感じさせると思います。毎年若手職員からのプランを募集してその中で例えば 20 出たら 2 つは必ず実行に移すとか、そういうような事業内容を入れていただくと新規性が出るのかなと思います。先ほどから申し上げている女性に関してなのですが、このあとご説明があるのですが、3 番目のワークライフバランスを見ても(エ)のところですが、どうしてもピンとこないですね。女性の再就職ですとか、新しいワークライフバランスを実現させるための継続的な取り組みというのは本当に単発のシンポジウム程度なら、それは確かに実現できますよねという感じで。でもそれだとどこに向かって何のためにこの事業を 5 年かけてやるのというところで、どこに成果が出るのか分からない印象なので、それをきっちりうたっていただいて、事業名も新規性が感じられるものにぜひ考えていただきたいと思います。

○部長 ありがとうございます。時間に限りがございますので、「3. 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる」というところで御説明をお願いします。

3. 若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

○事務局 (資料 3, 資料 3 参考資料の概要を説明)

○委員 教育に関してですが、職業教育といいますか社会に出たときに社会の仕組みについて教育を是非してほしい。新採で卒業したら半年以内に辞めてしまうとか、そういう学生さんが結構多い。例えば税理士の業界では税につい

様式第 1 号

て税の意識をきちんと教育をやっていたり、私共の業界では年金についてのことであつたり雇用保険とか労働法の基本的な社会に出て働く上で知っておかなければいけない仕組みについて、学校を訪ねて教育しているのですね。これは年金機構でもやっています。そういった社会に出ていって、非常に失敗したということのないようなことが事前に必要。そういった知識の教育を学校自体の中で取り入れていただければと思っております。

○部会長 ありがとうございます。他に何か御意見ございますか。質問なのですが、こちらの A4 の方で、例えば出会いの場の創出とかそういうものは非常に重要なのでここに入っているという理解なのでしょうか。個人の意見なのですが、下の方で縁結びスペースの設置とか、婚活スキルアップ講座とかこんなスキルアップしてもらってどうするのか。表現の問題かもしれませんが。このままいくとこれでまとまってしまうわけですね。私としてはどうでしょうという。何か御説明があれば。

○事務局 こちらにつきましては結婚・出産・子育てということで結婚の部分に関するものと認識しております。今現在ですと晩婚化ということで結婚が遅い・出会いがない、そういう方もいらっしゃるということです。今の街コンなども流行っているところですので、行政としてやるべきかという議論もございますが、まずは出会いの場を創出して結婚をしていただく方を増やして、結婚いただければ出産ということも増えるかという考え方で個別施策という風に理解していただきたいと思いますと思っております。

○委 員 私の世代は、覚えている方もいるかもしれませんが、確か労働省が勤労青少年ホームなどを作って、集団就職の時代でしたが、若い人同士の交流がないから各企業の担当者がいて交流の企画をしたことがあったのですよ。そういった企業でできない民間ができないものを行政とか自治体とかという形でもって集まる場所、交流の場所が必要だろうと思っています。

○部会長 確かにそれはありまして、よく商売している団体がありますよね。よく家に電話がかかってきてお宅に独身のお嬢様かおぼっちゃまは、入会金 40 万ですと平気で言ったりしますからそういうことから考えるともっと信頼できる交流の場があるのは当然必要だと思いますが、ネーミングがすごいなと思ったものですから。これはまた研究していただきたいと思います。何か御意見他に。

○委 員 今の街コンは意外と需要があるのかなと思いますが、それは別として、障害者の地域生活支援というところで、学校の先生の方にお聞きする話は、つくば市は障害者に対する手当は現段階では厚い方だと思います。その後ですよ。ここの取り組みのところに入っていますが、学校を卒業したあとの自立

支援がもう少し必要なのではないかと感じています。それと、教育現場の支援体制というところで、今スクールカウンセラーがどこの学校、高校でも入っております。スクールサポーターは警察官経験者の方がされているのではないかなと思うのですが、スクールカウンセラーは心理学的な側面から生徒を支援するわけですね。サポーターは問題行動を起こさないようにということで防犯的なこともあると思うのですが。今学校の中は心理学的な側面からだけ。あるいは防犯的な側面からだけではまかないきれない問題が発生しているのですね。ですからむしろスクールソーシャルワーカーのような形が今後は必要になるのだらうと感じます。それが全然入っていないので、もしできればそのスクールソーシャルワーカーが入っていた方が子供たちが落ち着くためには、あるいは家庭と学校と社会と自治体と繋ぐ役割も果たしていただけるのではないかと。問題があったときに、学校が主体となって色々な機関に声かけしてやらないといけないですね。非常に大変な部分があるのでそういう形がもう少し進めたらいいかなと思います。

○委員 さっきの資料 2-3 の優先度満足度の平均値の比較を見ると、出産・子育て環境の充実というところが重要度が高いにもかかわらず満足度が低いと出ていますね。この理由というのがアンケートの抜粋だと、出産する場所が少ないとかいろいろ書いてあるのですが、解決策といえるこのグラフを見る限りでは、何か今回の新規の事業に、この層に対する事業を考えた方がいいように思うのですけれども。バースセンターのことだけでというような、現在はそういう考え方でしょうか。

○事務局 これに関しては我々の方でもこの部分の施策が薄いと認識しておりますので、ここの部分については再度取り込むという方向で考えていますので、またこちらの方は決まりましたらお見せできるかと思っています。

○委員 何でここが低いのか私はちょっと理解ができないというか、一体何が不満なのでしょう。割とつくばは子育てはしやすい町だと思っていたので、そうではないのかなとか、そのあたりの理由がもう少し詳しく知りたいです。あともう 1 点、科学教育の推進の資料 3 の③科学教育の推進でつくばちびっこ博士パスポートの提出者数なのですが、市外の方の目標数値が今年 350 人で 5 年後 400 人で 50 人しか増えていません。これはできれば、私の意見ですが、4,000 人くらいに目標を持って、市内と市外と同じくらい的人数が来るくらい市外にアピールしたらどうか。これは、すごく魅力的な事業だと思っています。既にあるつくば市の財産というかこういった事業をもっと市外にアピールすることで、親子でつくばに遊びに来てもらって、そしてつくばを体験してもらってつくばに住みたいと思わせるというきっかけになる事業に育てられるのではないかと。市外の方は例えばパスポート一冊 500 円で買ってもらうとか、そういう形で年々 1,000 人 2,000 人と増やしていくような。小学校 1 年生全員招

待してしまうくらいのそういう住民を増やす施策の一貫として考えていただく
といいのではないかなと思いました。

○委員 私北部工業団地に研究所がありまして、そこで働いているのですが、
東京から通っているものですから、つくばは非常に遠くて、交通の便が悪いと
思っています。ただ、実際つくばに住んでしまえば別段うちの研究員は自家用
車ですし、例えば並木だとか竹園だとかそっちの方に持ち家を持ってしまって
通っている人が多い。そこに住んでいれば、例えば東京の豊洲に転勤になっ
ても通えるのですね。ですから先ほど話がありました、都市整備計画というのは
非常に大事で、例えば、つくばの市内の企業に働くのもできますし、つくば
から東京へも通うことができると。それで持ち家の優遇税制をやったりして、
とにかく持ち家施策をつくば内だけではなく例えば東京の人だとか色々な人に訴
えていけば家を持ちたくなるようなそういう PR をすべきではないかと思いま
す。それからもう 1 つ、やはり企業誘致は大事で、北部の工業地帯、工業団地
はセンターから離れていて遠いのですが、例えば花畑だとか大穂には単身者の
方が結構住んでいまして、アパートを借りて住んでいる人が多い。そこにはき
ちんとカスミさんもありまして、生活ができるようになっています。ですから
やはり企業誘致をどんどん進める、それから持ち家施策を訴えていく。それは
つくば市内だけではなく色々なところに PR するという 2 つの施策を打って、
ここに住んでもらうというのをとにかく進めていただきたいなと思います。

○部会長 ありがとうございます。そろそろ 40 分くらいになっていると思
いますので、最後に副市長から御意見を。

○副市長 本当にいろいろな御意見いただきましてありがとうございます。こ
こで、つくばならではの形をいかに記載していくかというのが大事だと認
識しております。それからつくばならではの何なのかという、やはり今は科
学技術という強み。東京だとかいろいろな人たち。これを住環境にまたは産業
に結びつけるような方法としてはいろいろなことをやっておりますが、まだ
まだございますので御意見等々いただいて。それから農業というものも有機からク
ラインガルテンから色々な形が必要でしょうし、つくばほど自然と都会との融
合しているようなまち、努力しているまちはないのではないかと。是非それを
推進していくことによって、つくばの魅力づくりをできればと思っています。
部会長がおっしゃっていた、女性と青少年が一緒というのは、やはり項目は分
けた方がいい。人を呼ぶ時に住んでもらうために何が一番大切になってくるのか
としたら教育だと思います。小中一貫の春日学園ができ、相当児童数が増えて
いますが、ああいう現象はやはりお子さんに対する取り組みというか、親御さ
んの責任とかそういうものを感じます。これからますますこういったものを教
育的な側面から行っていくことが大切なのかなと改めて実感したところです。
それから職員の教育、どういう形でやったらいいのか、なかなか、掴みづらい

と思うのですが、いろいろありますが大事なことだと思っております。つくばらしさとして、つくばの特色を 50 年間培っていただいた諸先輩方の知恵を、次の世代にどういう形で繋いでいくかということが求められています。それが少子化対策にも繋がるだろうし、他の町村にはないつくばの魅力。全てはその網の目のように結びつく形で考えなければならないのかなと改めて感じた次第です。これから事務局でもそういった整理でお願いしていきたいと思います。

○委員 つくばらしさも非常に素晴らしいが、でも一般的な人が一般の生活をしたいと思っている人が実は多いのです。私のところ娘が 3 人いるのですが、3 人とも子育て真っ最中です。ショックを受けたのが、長女が守谷に土地を買って家を建てたのです。何でつくばでないのかと言ったら、つくばでは働きながら子供を育てられないから。お父さんが住んでいるところから小学校に行ったとしても児童館はない。児童クラブはあるけど 17 時で終わり。どうやって私働きながら子供を育てればいいのか、守谷はそれができるのだと。それが非常にショック受けたのです。普通の人が普通に働いて子育てができる場所を市民の皆さん方は多く望んでいるのだなと思いました。例えば、待機児童、つくば市は圧倒的に多いです。100 人をほとんど切ったことがありません。保育園を作っても作っても、児童館を作っても待機児童は減らない。何故かという潜在待機児童が多すぎるのです。一般の人は調べるわけですね、うちの子供を保育園あるいはこども園に入れたいと。ところが一杯だと。そうすると申し込んでもどうせ入れないのだからわかっているから申し込まないのです。だから、その人は数字上の待機児童として出てこないのです。ということは待機児童が 100 人いるということは、その何倍も待機児童はいるかもわかりません。それがつくば市では、残念ながらずっと回避できていません。私は横浜方式、にわかには脚光をあびましたか、どんな方式だろうと思っていろいろ調べたのですが、議会の立場からもいろいろ提案しました。いいところはどんどん取り入れて横浜方式取り入れたらどうかといったけれども、残念ながら全然進んでいません。それくらい待機児童を解決する、学童保育の問題を解決する、そういうことをしないとどんどん若いお母さんが働きに出られない。もう一つは働く場所ですね。ベンチャー企業とか創業支援とか本当に素晴らしいと思うのですよ、つくばらしさから言えば。だけどそこで誰が働けると、あるいは研究所ができてつくばいいよねって言われるのですが、どこで地元の人がどういう風に正規の雇用をしてもらえるのかということを考えると、むしろ生産工場を作ってもらった方がいいですね。ところが県の方に聞きますと、いや、つくばに来たがる企業はいっぱいいる、でも土地無いだろう、どこに企業は出ていけばいいのと。全然場所も用意しないで働ける場所を作ろうと思っている、それは無理だという話になるのですが、そういうことを考えても、生の声を聞かせていただける人がいるのは素晴らしいと思う。さっき言った子育て支援を考えるならば、学童保育とかあるいは待機児童で本当に苦しんでいる生の声を聞きたいなと思って、1 回目の時になんで P T A 連絡協議会の人を入れないのとか、あるいは

民間保育園連合会の人をなんで入れないのとか、保育所父母の会の代表の人を何で入れないのかと質問したのですが、残念ながら返事はありませんでしたが、そういうことも実は大事なことであって、そういうことが徐々に解決されていくとさらにつくばに住んでよかったなと思ってくれる人が増えるのではないかと思います

【定住促【定住促進・拠点整備部会】

（３）総合戦略のとりまとめ状況について

○部会長 この部会は、項目の２と４の定住促進・拠点整備部会ということですが、これから合計１時間ほど、（２）と（４）それぞれ３０分ぐらいで行いたいと思います。

前回と同様、部会ではぜひ活発な議論を。４０人近くいる全体会議では余り意見が出ないので、せっかくですので、部会の方では皆さん必ず一言ずつ御発言いただければというふうに思います。

それでは、初めに、（２）の「東京圏から人を呼ぶとともに、若い世代のＵターンを促進する」について、資料に基づきまして、特に前回からの変更点、あるいは新規事業につきまして事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 （資料３と資料３参考資料の概要を説明）

○部会長 ありがとうございます。特に改正点を御説明いただきましたが、この部会で議論した後、また全体で議論して、これが最後ではないですが、３回目の委員会は、この後のスケジュールでいうと、市長、あるいは市議会に説明、パブリックコメントという予定ですよ。そうすると、有識者会議の意見がさらに肉付けされるある意味最後のチャンスでもありますので、ぜひ皆様、御意見を積極的にお願したいのですが、今最後に紹介がありましたけれども、これを全部それぞれ細かく議論していくとまた切りがない。地方創生という切り口から、今回、重点を置くとしたら、どれかを切り落とすということではないのかもしれませんが、どれかを柱に浮き立たせて、それと関連させていくというような見方も必要かと思います。その辺を含めて、全体あるいは個別でも結構ですので御意見をいただきたいと思います。

○委員 資料３のところでロボットの施策が幾つか出ていますが、ロボットはつくばとしては売りだと思えますから、この前も言っておいたかと思うのですが、今日のロボットになるまでの途中経過のものを展示するようなロボット博物館のようなもの、子供たちの校外学習としてつくばに引っ張ってくる場合に、そういう場所が拠点になるということが理想だというふうに思いますので、

ぜひそれを入れておいていただけませんか。

○部会長 隣の部会の方でも議論いただいている（１）の「産業力の強化」の右の個別施策のところに②「ロボットの街つくばの推進」、これともまた関連させて、今のような博物館みたいなものをプロモーションとしてやるべきだと。

○委員 それがないと拠点ができませんから、ぜひそういうものをつくる必要があります。新しくではなくても、例えば、どこかの庁舎だったところを直すとか、見学のコースとしては、そこで子供たちが博士の講演を聞くとか、あるいは映像を見るとか。このままだと途中経過のものがごみになってしまうと。これは山海教授の意見でしたので、やはり大いに取り上げるべきだと思います。

○部会長 今、各市が地方創生をやっていますので、つくばらしさというものを際立たせないと、どこでも同じという話になってしまいますので、そういう意味ですね。

○委員 ロボットを打ち出せば、子供たちは校外学習としてつくばを選ぶことに率先して賛成できると思いますから。

○部会長 シティプロモーションの一部でもあるという理解でよろしいでしょうか。

今回、シティプロモーションの中にも書いてありますし、ほかのところにも書いてありますが、新しく形が見えてきました「B i V iつくば」を活用されるんだろうと思いますが、どこかそういうふうに。

○委員 古いものを活用してもいいと思うのですよ。取り壊しをしなくて、修繕して使えるという。

○部会長 空いた場所も出てくるでしょうし。

○公室長 今、部会長の方から御指摘がありましたように、「つくば駅ターミナルビルB i V i」が９月にオープンしまして、あそこを総合情報インフォメーションセンターという形にしまして、１階が観光案内所、２階につくばの情報発信ということで、人溜まりスペース、プラスそこでイベントだったり、あるいは色々な科学講座だったり、そういったことができる教室のスペースもございますので、そういった活動をしながらつくばの街のPRをしていきたいというふうに考えております。また、既存の施設の活用についてはこれからまた研究していきたいと思います。

○部会長 シティプロモーション、観光も含めて、あるいは今のようなつくば

の特徴を含めて、全体としてこの（２）では、東京圏から人を呼ぶ、あるいはまた舞い戻るという意味で、特にここを強調したらどうかという御提案がございますか。

○委員 （２）の「東京圏から人を呼ぶ」云々の基本目標のところですけども、ここと個別施策の（ア）の③の「ＵＩＪターンの推進」とのリンク性が、合わないのではないかという気がします。

この個別施策の中に書いてある「ＵＩＪターンの推進」の中は、大学進学・卒業後に転出した若年層について子育て期のＵターンを促進しますというようなことが書いてあり、この基本目標はＵターンのことは言っていますが、ＵＪの関係がうたわれていない。この基本目標そのものが、東京圏から人を呼ぶ云々ということを全部まとめて、東京圏から若い世代のＵＩＪターンを促進するというような書きぶりの方が、個別施策との意味合いが合ってくるのではないかなという気がします。

「ＵＩＪターンの推進」の中で強調しているのはあくまでもＵターンだけなので、しかも若い世代という言葉が入ってなくて子育て期のことしか書いてなくて、どうもこの目標と個別施策がリンクしていないのではないかかという気がしましたが、この辺を御回答いただければと思います。

○部会長 趣旨はよろしいでしょうか。隣の部会でやっている若い世代の結婚・出産を考えるとという方に入ってもいいのではないかと私も思うのですが、それとはここは違うということを説明してください。

○事務局 基本目標自体に手を加えていますので、御指摘のように若干整合がとれていないところがあるのかと、今御指摘を受けまして我々の方でも、この点につきましては修正といいますか、整合がとれるような形で統一を図りたいと考えております。

考え方としましては、特に、先ほどの説明で申し上げたように、若い世代と大学を卒業された方が市外に出て行った場合、そういった方も子育てする世代になったときに戻ってきてもらう、そういうところに力を入れていきたいというのが主であるのですが、そのほか、全般的に若い世代以外の方も呼んでくる。つくば市以外の方につきましてもＩターン、Ｊターンを促進していきたいという考えがございますので、その辺は統一が図れるような形で修正を行いたいと思います。

○部会長 子育て環境等は隣の部会でもやっているんで、その辺が混乱しているのではないかという感じもします。

分ける必要がなくて本当は全部一体だと思うので、その辺を整理してもらえるといいかと。

○委員 前回の会議でも申し上げて、それで今回の会議後のところでも書かせていただいたのですが、転入を増やしていくということと、転出を抑制していくということのどちらに力点を置かれるのかというところが、正直疑問なところがあります。

今回、基本目標が、前は人口流出をとめるという基本目標だったと思うのですが、これがUターンを促進すると。Uターンということは、一回出て行った人、過去に出て行った人たちをもう一回戻すということだと思いますので、転入の促進の話だと思います。転出を防いでいくことと転入を増やすということのどちらに力点を置かれるのかなというところをもう一回確認させていただきたいと思います。

私は個人的には、前回も申し上げたとおり、つくば市に住んだことがない人、また、住んだことがあったとしても一度出て行った人を呼び返すということで、そんな簡単ではないと思っています。それに対して、ここに書かれているとおり若年層が年間5千数百人転出をしていっているわけですから、この人たちというのは、少なくとも数年間つくばで暮らした経験のある人たちだと思いますので、ある意味でつくばのよさもきちんとわかっている人たちではないかと考えます。ですから、結果として一人でもプラスにしていこうということを考えるのであれば、むしろ転出を防ぐための施策というのを考える方が即効性があるのではないかなと個人的には考えているんですが、その辺を含めましてお考えをもう一回伺いたいと思います。

○公室長 御指摘のとおりでございまして、もともとの題名が人口流出のダムになるということで非常に広い概念でございました。これを若い世代のUターンということでとらえたので少し小さくなり過ぎかなという感じがしております。

実際、Uターンで戻ってきてもらうということのも重要ですけれども、つくばにそのまま住んでもらうことがもっと重要でございまして、まず知ってもらうことが一番大変で、それは住んでいる方が一番よく知ってらっしゃるので、その方に対するプロモーションというのが一番有効かなと私どももっておりますから、そこをあわせながらやっていきたいと思ひますし、この表現についても少し研究させていただきたいと思っております。

○委員 ありがとうございます。もしそうであれば基本目標の（3）のところは、今の文章ですとUターン、要するに出て行った人を戻すという部分しか言及がないと思いますので、流出をとどめるという部分もぜひ言及していただければと思います。

○部会長 ありがとうございます。ほかにございますか。

○委員 今の話とも少し関連するかと思うのですが、若い世代、特に大学生

が就職するに当たって転出したものに対して、子育て期にＵターンを促したり、そのままつくば市に住んでもらうという方針につながっているかと思うのですが、そのためには、つくば市に新たに大学生になって転入してきた人に対してのプロモーションというのが特に大切だと思います。

今見たところ、(ア)の③「ＵＩＪターンの推進」のところが先日の移住のところから今回変わったというのもあって、そういった記載が余りないようなので、そういうのを特に重視して行った方がいいかと思います。

○委員 今、つくば市内から大学生が卒業時に出て行くという話が非常に多いと。それを、転出を少なくさせて、とどまる人をふやせばいいだろうという話があったと思うのですが、そのためには、つくばのよさをよくわかってもらうために、例えば筑波大学で、つくば学とかそういうつくばの魅力を発信するような講座であるとか、そういったものも仕掛けとしてはありなのかなと思います。

さらに、大学生のアンケート調査を見ますと、住まいに対する希望として東京圏が一番多いわけですが、34 ページでいうと、東京圏が 40 %、つくば市内と県内が合わせて 27 %いる。一方、次の 35 ページのところを見ると、单身時も結婚時もこのままつくば市に住みたいという人もかなり多いわけですね。46 %と 38 %ですか。いずれにしても、つくばに住みたい、つくばでもいい、あるいはつくばがいいんだという人もいるわけで、その辺をうまくやっていけばいいのかと。

例えば東京圏に就職して、新しく住むとすれば、都内は地価も高いし、どうしても郊外になる。中央線などで言えば立川や、小田急線でいえば相模大野など、あちらの方の距離と、つくばの通勤時間としてはそんなに変わらないはずですね。1 時間以内だと思います。そうすると、同じ通勤時間がかかるのに、当然こちらの地価の方が安いし、3 分の 1 とか 4 分の 1 ぐらいで買えるのだらうと思います。住むには便利だよ、通勤時間も変わりませんよと、そういう魅力を発信することも一つであるのかなと思います。

さらに、36 ページのところでは、住みたい理由と住みたくない理由があって、一番住みたくない理由は交通の便が悪いというのが出ています。しかし、一方では自家用車であれば自由に行けるという逆の P R もできるし、次に住みたくない理由としては商業・娯楽施設の充足というのがありますが、これはすぐ 1 時間以内に東京に行けるのだから全然問題ありませんよという P R も一つ必要なのかなと思いました。

○委員 皆さんのお話を伺っていて、その方向だと思いますが、私が実際に筑波大学の学生を東京で迎えたり、水戸でも迎えたりしているのですが、T X 開通前の不便なころの学生なのですね、アナウンサーにしてもディレクターにしても。私自身も東京から水戸に来てつくばエクスプレスを使ってみると、こんなに便利だったのかと驚いているわけですね。今住んでいらっしゃる方は

様式第 1 号

つくばエクスプレスの便利さをすごく知っていると思うのですが、これは 10 年前にようやく始まったばかりのもので、今の便利さというものをきちんと周知することも大切かと。

今、教職員が、23 万人いるうちの 3 万人ぐらいが筑波大学関係者なので、その足元できちんと魅力を発信していかないと、また来年の 3 月に卒業していくわけですし、そういう学生さんたちがふるさとに帰ったり、つくばを離れたりしても、つくばに住んでいてよかったという、そういうよさというものを発信していかないといけないと思います。それは学生の問題だけではなくて、私みたいなテレビ局の人間もそうですが、住んでいらっしゃる方、あるいは行政がみんな、つくばって本当にいいところだと実感していることを発信していかないと。

そもそも論になると、事務局はダムの言葉で大分御苦労なさったと思います。私は片仮名の会社にいるのですが、できるだけ横文字とか英語とか片仮名は使わないようにしようとずっと言ってきました。この基本目標も基本施策も個別施策も、結構具体的にわかりやすいものが多い中で U I J ターンというのは、御苦労の産物だとは思っているのですが、やはり分かりづらい。多分そこから気づきがあって、皆さん意見を言ってらっしゃると思うので、ということは、これから議会とか市長さんに報告する中で、市民の方が御覧になったときにわかりやすい文字にしていくという意味で皆さんここにこだわっていると思うので、よろしくをお願いします。

○委員 私は、流出を防ぐ、あるいはまた流入を増やすという意味で一番基本になるのは、まず仕事があること。職場が得やすいということが基本になるかと思っています。

そういう意味では、(ア)の部分ですね、創業支援、あるいは企業立地、創業者定着と、こういったことが今いち、役所の方ではいろいろと施策を考えておられると思うのですが、目に見えた形でできていないのですね。もっともっと仕事をいかに増やすか、仕事場を定着させるか。

そういう意味では、つくば市には、先ほどから言っていますように、ロボットの世界的な先端企業があります。サイバーダイナミクス社などはその先頭だろうと思います。世界に羽ばたく企業になっています。第 2、第 3 のサイバーダイナミクス社をつくるような、そういった支援をもっともっと市では強化していくべきではないかというふうに思います。

○部会長 ありがとうございます。今の御意見は、隣の部会とも関連するので、この後の全体のとくにぜひまた発言いただければと思います。

○委員 私も委員が言うとおりでと思いますし、こういう会議に都市計画に関心があるような筑波大生を入れるべきですよ。そうするとまた斬新な意見が出るし、何が本音なのか我々の年代でも分かる必要があるのかもしれない

ね。

ただ、新しく変化していくことだけにとらわれると困ってしまうことがあります。まして、つくば市は6カ町村が合併して、合併した既存の町村だったところがそのままになっているのですよね。こういう地方創生みたいなことが出たときがきっかけで、旧村のときに出してあるものを一緒に取り上げて、例えば、あそことあそこに片側2車線の道路を入れれば大きな企業を持ってこれる場所になるとか、そういうふうなこともなくはないわけですよ、谷田部も、あるいは筑波の方も。何かそういうものが上がっていませんか、ここに。私は谷田部の方から言われてはいるのですが。

6カ町村のときからそういうふうなことがそのままに置いていかれているんですよ。そのまま、検討されるという場面がないというかね。こういう地方創生、6カ町村が合併をしたところの既存の町村、ここにもう一つ手を加えれば物すごくいい状況になるということも見えてきました。それは、新しく作った道路と既存の細い道だったものを計画的に広げることができるというふうな状況に来ている。そういうものもぜひここで取り上げるいい機会かなと思っています。

○部会長 後半の(4)のところでは今の拠点づくりという議論がありますので、そこでぜひまた発言いただきたいと思います。

あと、先ほど事務局からも紹介がありました、市民アンケートで重要度、満足度の評価の表がございました。横長の表になっているのですが、今の我々の部会のカテゴリーの(2)の部会でいいますと、「つくば市の魅力を市外へ発信する」からずっと5つほど並んでいるのですが、その中で非常に重要だと思いながら非常に満足度が低いというか、差が大きいという意味でいうと、快適な生活環境やにぎわいのあるまちづくりをしてくれと。これは住んでいる方々がこう言っているのですが、これは一体何を言っているとお考えでしょうか。何が不満なのか、その辺、もし御意見がありましたらどうぞ。

○委員 今ちょうど発言したいと思っていたところがまさにそこなのですが、通勤圏内が1時間以内であるということはTXのそばからだと思います。ドア・ツー・ドアで物事を考えると、TXのそばに行くまでの時間を換算して、先ほど委員もおっしゃっていたように、住んでみると実は不便だということがわかってくるのではないかと思います。

それで、私が一つ考える不便さというのは、結局、拠点であるTXの駅まで行くのに、近くに住んでいる人でも自転車なり徒歩なりでかなり歩かなければいけない方が多い。特に若い方は駅周辺の高いマンションには住めませんので、少し離れたところにお住まいになるでしょう。そうすると、恐らくそこが不便になってくる理由だと思うのです。

そうやって考えたときに、我々が見ているA3の表で、「魅力ある居住・交流環境を創出する」の中の「快適な生活環境の推進」で、日々の生活が不便だと

様式第 1 号

か、不便さについてのアンケートが出ているのにもかかわらず、イエローカードと美化運動だけでいいのかというところが問題になってくる。ここにこそ、まさに居住空間の充実の内容を、不満のところから学んだことを入れ込むべきだと思います。

○部会長 特に高齢の人たちについてのアンケートがほとんどないので年齢構成もさっき質問したのですが、住めない街になる危険性があるのですよね。さっき、駅から遠いところにある住宅地が今どんどん空き家になっていると。私が住んでいるところもそうなのですが、そういうようなことに対して、一度住んでみると便利だという半面、一度住んだ方は大変不便だということを知ってしまう。この辺を解決しないと大きな問題になるのではないかと思います。

一方で、ハブアンドスポークという提案もあるのですが、その辺について市の方では何か。大変重要な市民アンケートの指摘だと思いますが、それにどういうふうに応えようとしているのか、今後の取りまとめでどうまとめるのか聞きたいのですが。

○公室長 おっしゃるとおり、このスケルトンの中にも人口ビジョンのほうでハブアンドスポークという考え方をやっています、中心地区というのでしょうか、核となるところはTX沿線を核としながら、町村ごとにつくられた市街地をスポークとして結ぶ、それを公共交通で結んでいきたいと思いますということで、今、つくバス、つくタクをやっています。ここについては皆様方にアンケートをすとなかなか御満足いただけないというところもあって、なるべく利用頻度が高く、なおかつ経済的にも回っていくような形で取り組んでいくことが最大の課題かなと思っています。

国自体もコンパクトシティー化ということを言っています。つくば市自体は非常に市域が広いので単純にコンパクトにはならないので、そうするとこういうクラスター状のものをつないでいくハブアンドスポークという形での、つくば版コンパクトシティーということで考えていく必要があると思います。それが快適さにつながってくるのかなということで、そこは4番のところの中身にも入ってくると思いますので、そちらの方でまた御議論いただきたいと思います。

○部会長 これは非常に重要なので、これができないなら今度この提案をしてもほとんど意味がないのかもしれないぐらい重要なのだらうと思うのですが、それを一つの柱に、それに関連する色々なものを。

あと、不満足度はいいのですが、満足度になると、魅力的でにぎわいのあるというのは今以上にどういう点を強調したらいいのか、その辺はどうでしょうか。

一度住んだことがある方、あるいはIターンの方は、つくばって光っているよねという何かがあるといいと思うのですが、ほかの町村とは違う何か光って

いるものがあるとするとなんのか。先ほどのロボットの展示みたいに非常に見えるようにするとか、何かその辺御提案等ございますか。

○委員 とんでもない話をするかもしれませんが、今は光ってないけれどもすぐ光らせる場所はあると私は思うのです。つくばの大きな財産といったら筑波山なのですよね。筑波山の周りはそれなりに整備されて、さらによくしようとするのはよく分かるのですが、本来ならもっと先に手をつけてほしいのは鳥居から神社までのあの商店街なのです。あそこは死んでいます。全然変わっていません。あれを見たら、何だこれは、というような感じするのですね。

それと、山に登るのに必ず利用するのはお手洗いなのです。あのお手洗いは暗いんですよね。昔はもっと汚かったのですが、見たら、あそこを利用する商店街の皆さんもボーッと立って、「いらっしゃい、いらっしゃい、駐車場はここだよ」と。あれをやるのだったらもうお手洗いに協力してよ、そうすれば自然と町がよくなるのにとずっと思っていたのですが、だれもここに手をつけられない。つけていないのです。そこに住んでいる人の生活というのがあるからだと思いますが、これを何とかやったら、おー、つくばは変わったね、いいね、となるような気がします。

あとは（４）の話になりますから、後で話します。

○部会長 私も、せめて筑波古道の電線の地中化ぐらいはしてみたらどうかとコメントに書いたのですが、何か今までと違うよというのが見えないとせっかくあるものが光ってこないという感じがいたします。

そのほかにもあるのだろうと思いますが、どうぞ。

○委員 主な取組のところについて３点ほどなのですが、まず基本目標、「東京圏から人を呼ぶとともに、若い世代のＵターンを促進する」、ダムからこういうタイトルに変わったということなのですが、先ほど、転入に重点を置くのか転出に重点を置くのかというお話がありましたが、私は転入に重点を置くべきだと思います。転入というよりは、集まるまちづくり。要するに、集まるということは必然的に転出も抑制されることにつながるわけですから、人が集まるような、魅力あるヒト、モノ、カネが集まる街、それをやはりコンセプトというか、その上で基本目標を設定するべきかというふうに考えています。

それから、細かいかもしれませんが、確かにＴＸがつながって東京圏が一番対象とするところかもしれませんが、それだけではなくて、日本全国、あるいは世界、その辺に目を向けた基本目標であるべきかと思います。

それから、２点目。一番上の①のところですが、事業内容で２行目に「観光機能の強化」となっていますが、御承知のように、来年、Ｇ７の会議がつくばで開催されます。国際会議場もございます。そういう観点からすれば、観光もそうだけれどもコンベンションにも同じように力を入れるべきかなと。したがって、「観光・コンベンション機能」と、「コンベンション」の文字を入れてい

ただければいいのかなというふうに思います。

もう一点なのですが、下から3つ目、(ウ)の①「メディア・アートフェスティバル事業」ということで、新たにこういう事業をやりたいということなのではと思うのですが、それはそれでいいと思うのですが、文化・芸術・スポーツの振興という観点からすれば何か目標として小さいかなと思います。

まあ、それは置いておいて事業の内容の方ですが、2行目の真ん中辺に「科学と芸術が融合する」とありますが、科学と芸術のみならず、つくばにはいろんな伝統があります。筑波山麓の方に平沢官衙遺跡とか、それから、もちろん伝統的な芸能、あるいは谷田部にある伊賀七ですか、そういったものもあります。そういったものが融合するということからすれば、もう一つ「科学と芸術と伝統が融合する」というふうにしていただければいいのかなと思います。

○部会長 ありがとうございます。

それでは、後半の方も含めて、幾つか既に拠点等、あるいはハブアンドスポークと(4)の方の御意見も出ていますので、先に進ませていただきます。また、全体に関連するということで(2)の方も含めて、後半の説明をお願いします。

(4)「地域の拠点を強化し、コミュニティづくりを推進する」

○事務局 (資料3及び資料3参考資料の概要を説明)

○部会長 それでは、これについて御議論いただく前に、質問なのですが、これより色々なものが出ていますよね。これを一つずつ議論してもいいのですが、最後のまとめは後半の全体なのかもしれないですが、この中のどれかを柱にするとか、抜いているとかいう、そういう議論はしなくてもいいのですか。それは本部会議で選択しているとか。

○事務局 例えば、ここに重点を置くことによって地域づくりの活性があるのではないかと。先ほどもお話が出ましたけれども二次交通の話ですとか、ここに力を入れるべき、それが人を呼び込み、定住促進につながると。

○部会長 そうですね。それもここで議論するのですね。

○事務局 はい。

○部会長 当然だと思うのですが、不安になったので。

ですから、向こうの部会と関連するとしても、この部会の方で、最低2つは大きな柱だねということも含めて、1つか2つ。この(4)の中ではこれをむ

しろ，というような御意見を含めて。

重要度と満足度という表がありますが，このカテゴリーの（４）でいいますと，一番重要であり，かつ満足度が低いのが，「防災力・防犯力を強化する」と書いてあるのですが，本当にそうなのですか。その辺も含めて，全体で御意見をください。

○委員 前回と今回聞かせていただいて，まさに今，委員長が言われたことだと思います。

1 つ目が，TX ができて便利になったけれども，TX まで遠い，不便だと。住みたいと思って住んでみたらそうでもないねといったときに，28 年度からつくバスを見直すという事務局からの説明がありましたので，具体的に部会なり全体会議で言うのだったら，せっかく 10 年たって TX が定着してきて利用者が増えている。だけど，駅から遠い人たちが不便だ，あるいは学生さんが大学に通っても遠いよねと言っているとすれば，そういう交通網を便利にするというのが一つだと思いますし，私はよそから来てよくわからなかったのですが，防災力と防犯力は重要なのにこんなに低い街だったのかというのは驚きです。

確かに地方創生でこれを入れることがつくばのイメージとしてどうなのかというところはあるかもしれないけれども，そういう弱いところをあえて認めた上で，みんなで強くしようということをもし表に出していただいたとすれば，つくばってかなり本気だよねというところは感じられるように思いました。

（補足：東日本大震災や竜巻被害といった 2 度の災害を経験し，市民の方の防災に関する意識が高まっていることで，重要度が高まっていると考えられます）

○委員 今の話とも絡みますが，もし，あえて一つ選ぶとすると，公共交通の話というのはすごく大事なのではないかと思います。今日議論されている全てのテーマに絡んでくる部分でもありますし。

私，去年の 4 月につくばに引っ越してきました，それまでずっと東京だったのですけれども，やはり，駅から家まで歩くほど近くはないのです。これはつくバスではないのですが，民間のバス会社さんのバスが 1 時間に 2 本ぐらいしかなくて，どうしようかという話になるのです。

その問題をもし前面に出していく場合に，民間のバス会社の路線網というのが，つくばにおいても，地元の人たちの公共交通機関の一翼を担っているということだと思います。例えばバス会社もこの議論に巻き込みながらやっていくべき話なのか，それともそうではなくて，民間のバス会社がどうあるかにかかわらず，市としての考えに基づいて進んでいくんだということなのか，その辺すごく気になるところなので，そこは質問させていただきたいのですが。

○部会長 質問なので，具体的にはまだ先かもしれないけど，基本的にはどういう考えなのかを教えてください。

○公室長 基本的にバス路線に関しては民間の営業を圧迫しないということが前提になりますので、地域協議会（地域公共交通活性化協議会）の中では民間事業者も入ってやっていく。公共がやってしまうと民間がどんどん赤字路線を走ることになるので、そこはやはり民間の力を最大限生かしながら、公共がなるべく補足的なところをやるというのが基本かなと思っています。

○委員 もしそうであれば、民間の会社にもビジョンを共有していただく必要がありますよね、今の問題点と今後どうあるべきかというのは。

私、昔のことは余り知りませんが、聞くところによると、つくばというのは人口がどんどん増えてきていますが、バスの路線がだんだん少なくなってきたと。本数もだんだん減ってきている。それは、もしかしたら民間の企業としての経営判断としてはやむを得ない話なのかもしれないのですが、ただ、その路線ですとお考えになっているとすると、ここで話されている話とは逆に行ってしまう。

だから、それを変えていこうというときには、もちろん民業圧迫のことはやむを得ないと思うのですが、だとしたら、民間のバス会社の考え方をもう少し変えてもらって、こういうビジョンで一緒にやっていこうよというふうにやっていただく必要があるのかなというふうには思います。

○委員 実は今回のまち・ひと・しごと創生の中で、これは言葉の順番の問題なのですが、地方の核の都市というのは、仕事があって、そこに人が集まって、事後的に街が形成されていくわけです。こういった流れから、それを逆転しましょうというのがもともとの発想だと思うのですね。つまり、住みやすい街があって、人が集まってきて、結果的に仕事ができると。

そうした場合に、今回の4番のテーマも先ほどの2番もそうなのですが、つくばの魅力というのを考えた場合に、10年前に電車が走りましたよと。一方で、先ほど皆さんから御指摘がありましたように、つくばの周辺部分との格差の問題、その辺のところで、今回のスタンスとして、例えば交通の利便性云々ということだけをもってしてTXの沿線のところに人を呼び込むという施策をとるのも一つの方法でしょうし、あとは先ほど話がありましたように、一番有名なのは筑波山ではありますが、それ以外の地区では正直言ってもう限界集落に近いところもたくさんあるわけです。

そうすると、今回の4番のテーマで話すのが適切なのかどうかよくわかりませんが、別のグループの②の農業の振興というのは事業としての農業なんだろうと思うのですが、例えば、人を呼び込むための施策の中で、いわゆる東京に通う人を呼び込むための施策ではなくて、住んでもらう人といった場合に、農業の観点というのではないのかなというのを今疑問に思いましたね。

バスの路線、電車の路線を強化する、これはこれで一ついいとは思いますが、ずっと住んでもらうための施策というのが、例えば地域の拠点の強化の中でどこに入っているのかなと疑問に思ったのです。

○部会長 産業競争力という。

○委員 産業競争力としての農業なので。

○部会長 後でまた全体会でぜひ御発言いただきたいと思いますが、今の絡みで、要するに拠点という設計のコンセプトはどうなっているのかという御質問だと思います。

○委員 農業がどうだという話ではなくて、中心部だけの話なのか、あるいはもうつくば全体を捉えた中での、住みやすいまちづくりの中での話なのか。

○部会長 これは先ほど御提案がありました都市デザインの問題なので、人が住んでいようが住んでなかろうが、あらかじめ拠点はつくっちゃうという政策もあるのです。アメリカなどでよくやっているのですが、その間はバスは無料だとか、人が乗っても乗らなくても5分置きに動かすのだとかいうふうにして、バスターミナルとか駐車場などは駅前につくっちゃいけないと。もっと拠点、拠点につくるんだと。その間は駅の拡張というぐらいの概念でやるのが都市設計だと思うのですが、今のように、駅前は駐車場が足りなくなる、自転車置き場が足りなくなる。駅の真ん前に駐車場をつくらざるを得ないわけです。

その辺の考え方をさっき質問した訳ですが、民間バスとのコンフリクトもどうするのかというときに、市のリーダーシップというのをどういうふうに考えているのか、この辺、何かありましたら。

○公室長 基本的に市の考え方としては、未来構想でも言っていますようにスマートガーデンシティということで、都市と田舎の共存というのでしょうか、その意味では周辺環境の農業とかそういった自然を残しつつ、それを融合させていくというまちづくりです。そのためにはやはり農業とか地域の集落については、今、人口が減って過疎化していますから、そこは守っていくというのでしょうか、そこは維持していく必要があると。

その中で実際に考えられる手法として挙げているのが、ハブアンドスポークという形しかないのかなと。各地域に全ての衣食住に関連するもの、医療とかそういったものを拠点整備するのはなかなか難しい状況ですので、中心部にあるものについては中心部。ただ、生活に関連するようなものについては各地域の拠点に、例えば市町村ごとの中心地だったところにスーパーとか医療とか学校とかそういったものがあって、それで足りないものについては中心部に出てくるとい、それを交通で結んでいくことで全体の人の流れが出てくるといことで街が持続していくというイメージでまちづくりを進めていこうということにはなっています。

○部会長 （４）でハブアンドスポークというのは一つの大きな柱だと思いますので、できるだけ具体的に市民がわかりやすいように。これも片仮名でハブアンドスポークと言ってもみんな分からないと思います。何のこと言っているのか分からない。具体的にはどうなのと。つくばセンターなど、どこか１カ所でもいいから例を示して。

ほかに皆さん、御意見を。

○委員 ロボットとして打ち出すのであれば、ロボットに関係しての関連会社ですね、医療ロボットであろうと介護ロボットであろうと、あるいは企業ロボットであろうとね。つくばへ行けばロボットに関連している会社は、工業団地の中に 20 社、30 社、全部入っているという。戦略的にそれをやる必要がありますね。

○部会長 そうですね。これは隣の産業の振興とも関わるのですが、つくば市は土地を持っていないとおっしゃいますけれども、そういう戦略があるなら、離れていてもそこを拠点にすると。

○委員 テクノパーク豊里は、かなり大きいところが売りに出てますと。そういうところへも着眼して、ロボット関連のものは全部つくばにあるよと。そのぐらいの政策を街として出さないとだめなのではないですか。そうでないと、1 番だっていうふうになれないと思います。

○部会長 後でメールで出そうと思ったのですが、来年のサミット。ただ終わただけではなくて、科学万博が終わった後、万博記念公園があるように、サミット記念というのが何か残るだろうと。それは例えば今のようなロボット団地が残ったとか、あるいは駅前にロボット博物館ができたとか、何かそういう市民に見える形になるといいと思うし、これは恐らく土浦市もまねできない、どこにもまねできない。来年のチャンスをみすみす逃すことはないだろうと思うのですが、まあ、お国がやることですからつくば市は関係ありませんということかどうかわかりませんが。

時間がないですが、全体でもいいですし、ぜひ御発言を。

○委員 防災力のところなのですが、先ほど A 3 の資料で、最新鋭の車両に更新していくというところがあります。市内に消防団という組織が各地域にあるのですが、現在、人員の確保がどこの地域でも大変難しくなっているのだと思います。定員の 7 割ぐらいしかいないとかいう地域もあると思うのですが、そういった中で、今までだと自営の方が結構地元が多かったんで、そういった方は消防団に加入しやすい、また出勤しやすいというのがあったので加入率が高かったと思うのですが、最近だとお勤めされる方が非常に多くなってきているものですから、人員の確保という部分で非常に難しくなっていると思います。

現在だと各団で人数を集めているとかというのが現状だと思うので、区会とか自治会の方から少し推薦していただくとか、その中から探していただいて参加していただくとか、そういったのをに入れていただければと思います。

それで、災害が発生したとき、初動のとき、消防団の方というのは、自宅に被害があっても、初動命令が出ると、東日本大震災でも竜巻災害のときでも出てきていましたので、そういった組織力、また縦の命令系統というのがしっかりしていますので、初動のときも効率よく動けるのではないかなということで、人員の確保、そういったものも入れていただければなと思っています。

もう一つ、定住促進のところと子育て世代というところにつながっていくかなと思うのですが、こちらに移住していただく、移り住んでいただくという方には住宅のあっせんというのを考えていただけないかなと思っています。

先ほどお話が出た空き家なども全国的に増えてきている。そういった中で、新しく来ていただいた方とか、また若い世代の方に住んでいただくために、募集をしてそこに住んでいただくとか、購入していただく補助だとか家賃の補助、そういったものを出している地域も非常に増えてきて、新しい方たちを呼び込むという政策をしている自治体も多くなっていますので、住む者に対する支援とか、また住む場所に対する支援、3世代同居しているところであれば何か特典があるとか、そういった住む者、住む場所に対する支援なども考えていただきたいと思います。

○部会長 時間がなくなりましたが、まだ御発言なさってない方、何かお気づきの点がありましたら。

○委員 (4)の(ア)の基本施策の「みんなでまちづくりを推進する」というところなのですが、ここはタイトルが大きい割に中身が非常に薄い感じがするのです。結局、区会の話と、あとシニア世代の人材活用の話だけになっちゃっている感じで、市の施策としてできる部分に限りはあるのでなかなか書きづらい部分だとは思いますが、それであればタイトルを工夫するとか、ほかのところと統合するとか、検討されたらいいのではないかなというのが一つです。

もう一つは、先ほどから出ています交通体系の話に関係するのですが、私はこの4月につくばに転勤になって、非常にゆったりしたまちづくりで、今言われているようなコンパクト化とは逆の方向でやっているのかなという感じで、これ、だんだん高齢化していったときに本当にどうなるのだろうかというのが非常に心配で、そういう意味で、人口ビジョンのところに課題の3として、人口減少や高齢社会に備えたまちづくりという問題意識を鮮明に出されたということは非常にいいことだと思うのですが、それに対応する具体策みたいなものがまだ現状では余り出てないのかなという感じがします。その辺、工夫していただければと思います。

様式第 1 号

○部会長 重要な視点ですので、ぜひ。

○公室長 そうしましたら、地域生活拠点につきましては人口ビジョンの 30 ページからハブアンドスポークについて御説明をしております。ただ、これについてもまだ不十分だと思いますので、読んでいただいて御意見等ございましたら御指摘いただければと思っております。

○部会長 ほかにどなたか。

○委員 まちづくりという言葉がたくさん見えるのですが、まちづくりではハードの部分とソフトの部分いろいろあると思うのですが、特にハードの部分で先ほどから交通とかいろいろな問題が出ています。都市施設を整備するにしても、あるいはコンパクトな街をつくるにしても土地利用の話が出てくる。そうした場合に、都市計画の決定をしなければいけない。この計画が都市計画にリンクするのかどうか、その辺のところを確認したいと思います。

○公室長 今のマスタープランが平成 27 年度までですので、策定しております。また、立地適正化計画というコンパクトシティに向けたそういった計画も策定中でございまして、これらの考え方は整理をするということではほかの部とも調整を図っているというところでございます。

○委員 もう一つ。筑波山の話が出ましたが、住まいと店を分けさせるというか、店として全部借り上げる。筑波山は、動く歩道とかエスカレーターをふんだんに使わないと。ケーブルカーに行くまでに、百幾つかの昔の一段が高い石段を登る。あれではリピーターが来ないですよ。年代が高い人はなおのこと。大々的に筑波山は変えないと私はだめだと思っているので、店をつくるのであれば、住まいと店を分けてもらって、今の住んでいるお店ですね、これを一挙に全部借り上げる。そういう抜本的な大々的な企画を考えないと、筑波山は本当の観光地というふうになれなくなってくる。

駐車場からあそこへ降りていくのもエスカレーター、エレベーター、それから神社へお参りに行く階段も動く歩道、そういう抜本的な大々的な変化をさせないとだめと思います。

○部会長 そうですね。観光は非常に大きいと思うのですね。東京の高尾山など、駅から降りるともうケーブルカーですからね。

○委員 そうですよ。高尾山と同じぐらいにしないと何にもならない。

○部会長 ほかにもいろいろな方法があると思うので、ぜひ。

まだたくさん御意見もあるかと思いますが、またこの後、全体の会議もござ

様式第 1 号

いますので、部会にまたがるようなこともあるかと思いますが、ぜひ御検討ください。

一つは、割愛するわけではないですが、地方創生の切り口から目指すものが柱に見えてきて、例えば先ほどの「みんなでまちづくりを」という中にはシニアの防犯にも協力しようというのを統合することもできるので、何かそういう切り口で、ただ計画しますだけではなくて、ぜひ何か見える形でつくっていただきたいと、せっかく皆さんにお時間をいただきましたので希望する次第です。

では、部会の方はこれで終了しまして、また全体会の方をよろしく願いいたします。

【全体会議】

3 部会の状況報告

○座 長 それでは、また再び全体会議に御参集いただきましてから、最後の1時間ほど御議論いただきたいと思います。

それでは、まず、ここでは最初に、今部会に分かれて議論していた点の主な要点だけ、余り細かくなくていいですので事務局の方から紹介いただいて、それを含めて、この会議として、全体の方向性、あるいは課題についてまとめていただければと思います。

予定を聞いておりますと、この後、この議論を参考にして、市長を本部長とする本部会議で、先ほどのたたき台に出ていますが、ああいうものをつくりましてから市議会に諮り、また市民へのパブリックコメントを諮るという手順に入って、この委員会が開かれるのはその後になりますので、反映していただくような意見がありましたらぜひこの会議で御発言をお願いします。

では、まずは部会の報告からよろしくお願いします。

○事務局 （仕事づくり・子育ての部会の主要な意見の紹介）

○事務局 （定住促進・拠点整備部会の主要な意見の紹介）

○座 長 ありがとうございます。それぞれの部会について丁寧にまとめていただいたと思います。

全体として、これを後、本部会議にお渡しするわけですが、こういうことを強調すべきであるとか重点にすべきであるとかいう、それぞれの部会をまたいで、まとめ方などについても御意見がありましたら、ぜひ。

○委 員 先ほど、仕事づくり・子育て部会の中で時間がなくて発言できなかったのですが、総合戦略のとりまとめ状況、資料3の中で、「産業力の強化でしごとをつくり、安定した雇用機会を創出する」ということで、この会議もまち

・ひと・しごと創生ということになっていますが、先ほどの報告の中では「安心して働ける環境をつくる」の中で若者と女性と一緒にいるので、それを分けるべきだという話がありまして、それはもったもだと思います。

もう一つ視点を加えていただきたいのは、民間企業に勤める勤労者、労働者の視点がないのかなと思っていて、そちらの視点を加えていただければありがたいなということと、あとは、つくばらしさというものをそこに入れ込んだ形で表現をしていただければいいのかなというのを感じています。

○座 長 もう少し具体的には、労働者の視点というのはどういう関係ですか。

○委 員 この中では若者と女性ということでは触れられていますが、一般民間企業に勤める勤労者の立場ということであれば、今日資料で御説明いただいた資料 2－3 で「地方創生施策の重要度と満足度」というアンケート調査の結果がありますけれども、この中で 1 枚目の（ウ）というところに、高齢者の社会参加であったり、非正規ばかりの労働環境の改善であったり、賃金環境の改善というような具体的な項目が出ているのですが、こういった施策が反映されていないというふうに感じましたので、そういったものを、つくばらしさを含めて何か表現していただければと思います。

○委 員 高齢者対策というか、そういうことを話したいのですが、これは、高齢者と空き家対策みたいな形で並行してやっていったらいいのではないかと思います。北部地区の方では空き家がかなり出てきていますけれども、それに伴って高齢者のセカンドライフというか、そういうことを踏まえて、そのままでは住めないかもしれないですけども、改造したり修理をしたりして少しでもそういう形でやれば人口も増えるのではないかと。そして活性化になるのではないかと考えていますので、一言申し上げておきます。

○座 長 ありがとうございます。

ほかに、全体のまとめ方についても御意見がありましたら。

○委 員 今、両方の部会からの御報告があった中で、双方からやはり農業ということが出てきているかと思います。つくばらしさというところで、農業というのがすごく魅力をつくっている部分が大きいと思われるので、ぜひその部分を膨らませてまとめていただければと。

今のままでは農業が従来どおりにプラスアルファ的な感じなのですが、例えば教育の部分に盛り込んでいくだとか、あとは雇用の部分に盛り込んでいくだとか、外からの提供を促進する方策の一つとするだとか、そういった全体的に農業を打ち出した上でまとめられると、すごくつくばらしさが打ち出せるのかなと。

また、女性の雇用に関しても、例えば農業とかだと子連れ出勤みたいなとこ

るも可能な雇用の場だったりするのかなとか、色々な可能性が農業の場にはあるのかなと。そこでもう一つアイデアをつくり出していただけると、つくばらしさというところで一つカラーが出てくるかなと思いました。

○座 長 ほかにございますか。

皆さんの御意見も含めてですけれども、先ほどの取りまとめていただいたのと同じ重さで議論するとまとまらないと思います。それは配慮しつつ、切り捨てるわけではないですが、どれかを柱にしてみるというアイデアをぜひ皆様から。

例えば、今の農業というのはすばらしいと思います。魅力ある拠点をつくると。それはどんな形態なのというのを、どこかモデル地域をつくば市内につくる。農業ができるところ、シニアもいるところ、農業自身も教育になるというモデル地域をつくば市内につくる。そこは、もしかしてハブアンドスポークも必要なかもしれませんが、みんな安心して住める拠点という感じで、市民が参加できる拠点というような柱が何かあると、つくばらしさにもなるかなという気もするのですが、何かそんなことを含めて。

これは全部、各部局の部課にイーブンにまたがっているのでなかなかまとめるのが難しいのではないかと、事務局が大変御苦労なさると思うので、ぜひ有識者会議の方でその辺、ダブっているところもあると思いつつ、やはり中軸になるようなストーリーが必要かと。例えば、(1)、(2)、(3)、(4)で仮にどれか一つを目指すようにして、あとみんなそれに関連づけさせようというようなアイデアはいかがでしょうか。

何かそんなことも含めて、先ほど、重要度、満足度のランクの高い、カラーになっていますが、それはそれぞれの各部会の(1)、(2)、(3)、(4)の中に1つぐらいずつ、全部で4つぐらいあるのですが、それでいいののかも含めて御議論いただきたいと思うのですが、何か御意見は。

○委 員 やはりメインはロボットで、科学技術をフルに使った農地で、農業の従事者は全部社員、こういうふうにして、例えば雨でも種まきができる。コンピューターで全部整地した畑で黙っていても機械が全部種をまく。そういうふうなモデルケースをぜひつくるべきですね。

○座 長 そうですね。この間、新聞に出ていましたが、サイバーダイン社の腰に当てるロボットが普及したおかげで、建設業界ですけれども、定年という言葉がなくなったという。要するに退職する年齢がずっと上になったというんです。試験的に今どこかの会社でやっているらしいのですが、色々な作業の場面でこれから変化が出てくると思うので、そのモデルをどこかにつくる。農業でやる、ほかの街でやるならつくばでやってくれよということを、サイバーダイン社に提案すると。

○委員　そうですね。広い農地に、個人個人から全部借り上げて。

○座長　そうですね。そこには全国からひっきりなしに見学者が来るとい
うような、モデル的な魅力ある拠点をつくる。駅前だけではないよという意味
でね。そういうのも後で参考に。

ほかの切り口でもまだいろいろあるかなと思うのですが、何かストーリー性
がないとばらばらになってしまいます。言っていることはみんな方向はいいの
ですが、何かやりたい、それが何ですかね。

○副座長　やはり今発言された農業のようなものが地域と一番密接に関係して
くると思います。科学の街、ロボットの街というのは確かに科学技術の先端と
して世界的に宣伝材料になり、外国人の見学者は増えるかもしれませんが、地
域の人々の活性化という、農業のような産業で一般市民が参加できるものが
必要でしょう。我々の部会では、クライנגルテンとか有機農業とか意見が出
ていました。また、都市へのアクセスも重要であり、モデル地区として女性の
活用も含めてプロジェクト化する必要があるでしょう。

また、私はハブアンドスポークという表現に疑問を持ちました。日本全体で
東京をハブとしたら、筑波研究学園都市はスポークではないかと解釈していま
す。つくば市内のアクセスをよくするという意味なら、ハブアンドスポークな
ど表現する意味があるのでしょうか。

○座長　ハブアンドスポークも、片仮名だからよく分からないと。U I J も
分からないですが、片仮名だと市民の皆さんも分からないという。今、どこが
ハブで、どこがスポークで、どこが拠点なのかというのが。

ただ、これは魅力ある地域づくりの中の非常に重要な施策だと思います。大
変難しい問題だから余り具体化していないかもしれないけれども、先ほど言っ
たように、もしモデル的な場所をつくるなら、市内の旧町村の全部にそれをつ
くるというのも、将来はいいとして最初からそれを言うとなかなか実現しない
が、どこか1カ所でやるとかね。勝手なことを言っていますが、何かそういう
ストーリー性も必要かと思います。

何かほかの御提案もございましたら。

○委員　私、北部工業団地で勤務しているのですが、うちの研究員の女性が、
たしか並木に住んでおりました、豊洲の本社に異動になるということで、それ
までお子さんを預けて時間で働いていたのですが、東京の近くに借りアパート
を探していたのです。一つ大きな問題は、子供を預けるところがなかったと。
最終的に、預けないと働けないので、つくばの今預けているところにお子さん
を預けて、つくばから通うことにしたというような事例がありました。

つくばで持ち家を持つと子供を安心して預けるところがあるとか、そういつ
た、つくばに持ち家を持つメリットをアピールしていくことで持ち家を促進す

るというのはどうでしょうか。

○座 長 これはぜひ入れていただきたいですね。ほかと違うという。もう市役所自身もそうなっていると。先ほど先行しているというお話がありましたが。ありがとうございました。ほかにございますか。

○委 員 ストーリーなのですが、つくばでは今「つくばホンモノ」というプロジェクトがあると思うのですが、あれは5本の柱で、ちょうど今議論しているようなテーマがありますし、新しく転居されてこられた方に配っているというかわいい絵本があるのですが、その具体的な中身は特に決めていないということだったので、例えばそういったものが既にあるって一生懸命プロモーションをしているわけなので、それに絡めて今回の施策をストーリー仕立てで持っていくとか、何か活用できたらいいのではないかなと思いました。

○座 長 いいですね、それはぜひ計画してください。

大体、基本的にはそれぞれみんな一生懸命やっているわけだから。だが、今回、それをもっとアピールできるいいチャンスだからというので、「つくばホンモノ」はいいですよ。どうぞほかにも。

○委 員 つくばの魅力をつくるために色々な施策を考えてやるというのは一つ必要なことだと思うのですが、地方創生ということを考えたときに根幹的な問題は人口減少をどう食い止めるかだと思います。そうした場合に基本目標として、当然、子育て環境を充実する、ほかにも類のない街。

結局、人口減を食い止めるのに周辺の市町村とパイの取り合いでは根幹的な解決にはならないわけですから、子育てしやすい、あるいは出会いの場があるような地域づくりというのが基本目標として一番柱になるのではないかと思います。

そういうことを考えると、今の基本目標の構成ですとそれが3番手に来ている。やはりこれを1番手に上げて、そこから色々な問題に、それを支える基本目標というようなシナリオがいいのかなというふうに思います。

○座 長 先ほどの満足度、重要度のグラフがありますが、同じように、自然増の軸と社会増の軸との中で重点的な課題はどの位置で効果が出るのかというのを見ていただいて、これに地方創生というのは、従来の市政とは違う何か必要条件というのがあるのでしょうか。ほかの一般的な市民の満足度、従来のやっているのとはまた違う切り口なのだと思うのですが、そういう重要度というのはあるのですか。人口なのかもしれませんが、そういうことでしょうか。

○公室長 基本的には中長期的な人口ビジョンを唱えて、国自体が2060年に1億人を目指すということで、それに応じて地方も人口ビジョンをそれぞれつく

って、その人口ビジョンを達成するための戦略目標をつくりましょうという形になっています。

○座 長 非常にわかりやすい。そういう意味では順位があるのではない、という御提案だったと思いますので。

○委 員 先ほどハブアンドスポーク型の話で、つくば市自体が東京圏のスポークではないかとか、そういう話があったと思うのですが、一つのストーリーとしては、ここで提案されているものも当然だと思います。つくば市の中にハブがあって、つくば市の中にスポークがあるものだと思うのです。ある拠点がハブとなって、そこが魅力ですよ。ただ、その魅力だけだと、例えばつくば市に農業とかの魅力があったとしても、ほかの市から通って勤務するという場合も考えられると思うので、それだと人口の増には、定住ということにはならない。

なので、一つのハブを設けるのですが、ただ、つくば市の中にもそういう移住に適した、移住にもふさわしい環境があるよというような魅力をつくっていくのも大切ではないかなと思います。

○座 長 一言、まだ御発言なさっていない方、ぜひ。

○委 員 すみません、既に発言しているのにまたですが。

先ほど部会の方でもあったのですが、今、子供の預け先ということを検討した結果、並木から豊洲に通われることになったという例があったのですが、やはり子供の預け先ということは、どこに住むか、子供をどういった環境で育てるかということにすごくかかわってくるところなので、今回、待機児童をどう少なくしていくかというのがK P Iの方にも盛り込まれているようなのですが、待機児童ということに関していえば、保育所だけでなく児童クラブ。小学校の壁というのはすごく大きいので、そこについてはぜひ重要課題としてしっかり盛り込んでいただきたいというのを最後に一言申し上げたいです。

○委 員 つくば市は、中心部は近代都市で、その周りの集落は昔からのままの文化がある街なのですが、この格差は縮まっているのですか。僕は開いているような気がします。例えば今日、このメンバーで、この土地で生まれてこの土地で育った方、何人おられますか。

先ほど横文字とか色んなものがありますが、私が長いこと住んでいて感じたのは、後から入ってきたお前らはそんなこと言うなと言われた。言っているほうはそういうつもりではないけれども、ああ、伝わってなかったのだと。

それではどうしたらいいかなと考えたけれども、結論は、圧倒的によそから来た人が多い世界の中で、農家の方はどういうことに困っているのかなと思ったたら、小さなことだったのですよ。野焼きだったのです。野焼きをやったら団

様式第 1 号

地から総スカンを食った。でも、やらなきゃならない。それで私が、365 日の 1 日ぐらいいは洗濯しなくたって死なないのだから、みんなで協力しましょうと。たったそれだけ言ったら、農家の人たちは私に協力してくれたのです。

というふうにして、格差の縮まることをどうやったらできるか。市の職員がリーダーになって、おい、ここに集まれ、10 人でも 5 人でもいいから一遍ミーティングを持ちましょうよ、お酒飲みながらでもいいからやりましょうよということが、なさ過ぎるような気がするのですが。以上です。

○委員 同感。本当に。

○副座長 もう一つ余計なことかもしれませんが、あんまり横文字を使わない方がよいと思います。例えばハブアンドスポークですが、これは、すでにご案内でしようが、航空用語で基幹空港と乗継の地方空港を自転車で車軸にみたくて表現したものです。政府は成田と羽田空港をアジアのハブになどと表現しています。つくば市は国際都市で外国人も沢山いられますから、筑波研究学園都市を中心に交通アクセス情報を整備するという意味ならば、誤解をまねく表現をするよりも、「つくばらしさ」つまり、誰にもわかり易い日本語表現を考える方がよいと思います。

○委員 民間企業にも努力していただいて、企業の中に託児所をつくる推進の運動をしたらいかがかと思います。子供を地元の保育園に預けて東京まで勤めに出るというのはやはり勇気の要ることだね、病気になったらどうしよう、熱が上がったらどうやって帰ってこようという話になりますから、各民間企業に託児所を置いてもらって、そこで食と保育ができる、そういう環境づくりも必要かなと思います。

○座長 また後でお気づきになると思いますので、いつものようにぜひメールで御意見を寄せていただければと思います。

それでは、この後は、今後の予定を含めて、事務局の方からまとめの方をお願いします。

○事務局 本日はたくさんの御意見をいただきましてまことにありがとうございました。本日の会議でまだ言い足りない意見、またほかの部会での意見がございましたら、これまで同様、事務局までメール、ファクス、電話等、いろいろな方法で結構でございますので御意見をいただければと思っております。

また、今後のスケジュールですが、8 月 18 日に市長を本部長とする本部会議を開催します。その後、9 月 2 日に市議会の全員協議会の方で御議論をいただくことになってございます。

本部会議に再度修正しました総合戦略案をお送りさせていただきたいと思っております。その際にまた御意見をいただければと思ってございます。

様式第 1 号

また、9月4日から10月4日の1カ月間でパブリックコメントを実施しまして、市民の方からの御意見を踏まえ、10月30日までに取りまとめ、公表する予定になっております。

今後の流れにつきましては、以上でございます。よろしくお願いいたします。

4 閉会

○座長 ありがとうございました。それでは、これでもって閉会いたします。どうも御協力ありがとうございました。

○公室長 それでは、お時間となりましたので閉会といたします。

本日の会議録につきましては、全体会議、部会を合わせまして、後日あわせてお送りさせていただきます。

本当に本日はお暑い中、ありがとうございました。